

行方市 100 人委員会「第 2 班」議事メモ

議論した基本目標	新たな価値を創造し郷土と社会の未来を切り開く人間の育成
コーディネーター	熊井 成和
審議員	岡田 豊、 桑子 幹弘
説明担当者（自治体）	生涯学習課 学校教育課
日時	2021 年 5 月 30 日（日） 16 時 30 分から 17 時 50 分
その他	参加者数 <u>会場 3 名</u> <u>オンライン： 5 名</u> <u>欠席者数 13 名</u>

総括

コーディネーター総括

➤ 国際教育について

現行事業であるオーストラリアに行くのもいいが、対象者が 24 人だけ。やはり幅広く国際教育をするためには、地域にいる外国人と何らかの学びの場を設けていくのもよい。

行方市には、2019 年 12 月 31 日現在で、1000 人を超える外国人が居住しており、人口比で言うと 3 % となる。国別の内訳は、ベトナム人、中国人が多く、続いてインドネシア人、タイ人となっている。おそらく農業の現場等で働く技能実習生が多いと思われ、市民の多くは、歓迎している雰囲気がある。

子どもたちも、近隣に住んでいるので、目には止まっていると思われる。何をやっている人達なのかなというふうに見てしまうと、それこそ外国人ではなく外人という扱いになってしまう。外国の方がどういう意味合いを持って日本に来ており、何を目標とされているのか。子どもの頃からそういうことを考え接するだけでも、大きな国際教育と言える。

群馬県太田市の事例を紹介すると、外国人の人口比は 5% 位で、1 万人程住んでいる。初めは日本人と外国人の住民間にコミュニケーションがなかった。そこで、固定観念やステレオタイプのあまりない学生を対象に、多文化共生教育に力を注ぎ、地域の中での橋渡し役として活躍している。

外国人との多文化共生や、あるいは県市外から市内に来る人に対する橋渡し役という意味で、この「みんなで育むプロジェクト」は重要。

➤ 生涯学習について

児童館がなく、本の読める年齢期の前の遊ぶ場所、親の交流の場所がない。

また、核家族化が進み、時間のある高齢者が多い中で、子ども食堂はうまくいくの

ではないかという提案も出た。

1000年村プロジェクトや風土記を活用し、郷土への誇りを育むことが必要であり、これは子供たちが地域に留まる要素にも繋がる。

協議の流れ（摘録）

- コ) 3つ目の基本目標は「新たな価値を創造し郷土と社会の未来を切り開く人間の育成」となります。まずは、担当課の方々からご説明をお願いします。生涯学習の分野の議論が一つ、学校教育を中心にしたものが一つ、この二つの柱で進めていきたいと思えます。

【生涯学習課説明】

【学校教育課説明】

- コ) 最初は生涯学習をメインに進めたいと思います。
- 審) 暮らしやすい街というところでは、子供の育てやすさは、すごい重要な要素なんだろうなと思っています。生涯学習課さんでやられてる取り組みは、学校での教育プラスアルファなのかなという気がしています。その中で1枚目のシートのところで、生涯学習講座は教室を開かれてるというところなんですけれども、具体的にどういう内容なのかなということと、あとはテーマでいうと主に対象者は子供というところですが、そういう生涯学習は子供とそれ以外の世代が交流するようなものがあるのかなというところをご説明いただけたらと思います。
- 市) まず、生涯学習講座の対象者は子供というよりも保護者を対象に実施しております。生活習慣や家庭教育の内容を行っております。また、子どもたちを対象にした社会教育に関しましては、郷土の歴史について子供たち話をしております。
- 審) 学校教育のプラスアルファの教育という学習の機会と学校との差別化が図られる、開かれる学校ということで教科書を学ぶこと以外の生活実感を伴ったものをどれくらい学べるかということだとおもいます。
- 審) 行方ふれあいスタディとか、あと幼稚園学校支援ボランティアというところがすごい気になったのですが、2点ありまして一つはですね、生涯学習課の方の行方ふれあいスタディと幼稚園学校支援ボランティアのですね、まず、行方ふれあいスタディの方は、17、18、19年度で参加人数が書いてあるのですが、相当上下に大きく振れていると、これは何か要因がはっきりしてるのかということ。あと目標値が2000人に設定されてるんですが、2019年度は374人なので、相当上の方になっていきますけど、これは大丈夫なのかなっていうこと。もう一つはその後、幼稚園学校支援ボランティアの目標値が32名というのは、すでに2019年で53に達成してますので、達成されてる数値

委)：委員、コ)：コーディネーター、審)：審議員、市)：説明担当者

を目標値にされるというのは、なかなか難しいものなので、これから相当減ると考えられているのかどうか。最後に引っかかったのは生涯学習の言葉のイメージなのですが、生涯学習というのは子供の生涯学習というのもあるのですが、それ以外の年齢層の生涯学習というのが最近話題になっているところです。人生 100 年なので、中高年だとか、高齢者で、いわゆるリカレント教育というものです。生涯学習課が担当している分野でもないかと思うのですが、市役所全体としてそういうことを考えることがあるのかどうかという、この点をお聞きできればと思います。

市) 行方ふれあいスタディの数値は、これは1教室の数値になっております。1292人で修正をお願いします。幼稚園学校支援ボランティアも表記ミスでして、30人ではなく70人で修正をお願いします。生涯学習についてですが、子どもたちだけではなく、行方市民全体として考えていく必要があるかと思えます。

コ) 私からも質問をさせていただきます。シートに各課との議論と書かれておりますが、なにか課横断的なことが必要な悩みとかお持ちなのでしょうか。

市) 核かと連携する事業がありまして、家庭教育の分野なのですが、学校教育課、子ども福祉課と連携して進めていく必要があるかと思えます。横の連携をとることによって効果も上がるかと思進めております。

コ) 市民の皆さんにお伺いします。行方で生涯学習といったときに、皆さんは充実していると思われているのか、足りないと思われているのか、個々は感触をお聞きしたいと思えます。

委) 私の義理の妹の話なのですが、都内在住だったんですけども、ここ1年半ぐらい前にこちらの茨城に引っ越してきまして、彼女の意見なんですけれども、都心部にあって、この鹿行地域にないなっていうものは、児童館がないっていうふうに言ってたんですね。児童館は未就学児が遊べたり、本を読めたり、まだ二、三歳児がおもちゃで遊んだり、お母さんたちが交流できる場なんです。保育園のお迎えに行った後の、交流の場とか、何か育児の悩みをお互いに話したり、相談したり、できるママさんもそこで話せる、そういうコミュニティの場ですよね。そういった場がないっていうふうに感じたんです。

あともう一つ、子供食堂ですね。これは高齢者との関わりや接点の場にもなるのかなと思うんですけど。お子さんたちで集まってみんなでご飯食べるのって、核家族が多い中で、高齢者の方と交流を深めながらお食事をして、コミュニケーションをとる、そういうものがちょっと都会にはあるけれども、こちらにはないっていうのは、逆に核家族が少ないのか、差があるということですね。

市) 児童館はご担当どこになるんでしょうか？お母さんたちの交流の場という面も含めて、子供たちがふらっと行って遊べるような、今のご説明のご担当課ではないということでしょうか？

こういうところでも各課との連携が必要ということなんじゃないかな。

審) こども福祉課とかでやられているんだと思うんですよね。

コ) ありがとうございます。都市部にあつて、行方にないものは、ヒントになりそうですね。

〇〇さんいかがですか？生涯学習という面で強い期待するようなことはございましたか。

委) 常陸国府風土記のことなのですが、なかなかその記録が残っている地域が少ないと聞いたので、郷土に誇りを持てる育てることにつながるかと思うので、これをどんどん進めてもらいたいと思います。

コ) 市でも、専門の課で、そういうのも PR しているようですが市報にも、地域のいわれも紹介したりしていますので参考になるとと思います。

それでは、学校教育課の方に議論をシフトしたいと思います。シートにある待機児童数ゼロの数字の意味合いですが、市全域でのいわゆる待機児童数 0 と考えてよろしいですか？

市) はい。行方市全域で待機児童数 0 です。

委) 今、子供たちが少なくなっているということで、それであの幼稚園も大橋麗さんが言われた通りに、本当に少なくなってますよ。

市) 玉造幼稚園は令和元年では 23 人。玉造駅幼稚園はもともと多かったのですが、急に減りました。玉造には結構新しい家が建っているわけなのですが、やはり共働き世帯であつて、核家族化で、おじいちゃん、おばあちゃんに預けられないということで、預けられる保育園認定こども園が人気だということです。

コ) 幼稚園、保育園、認定こども園の話なのですが、平成 21 年に子ども子育て支援法というものがまた変わつて、これまでは幼稚園の授業料安かつたんですよ。ですから保育園に預けておいて、小学校に上がる前には一段階幼稚園を踏んで、それから小学校に上がるといくわけだったんですけど、今はその幼稚園のメリットがなくなつてしまひ、保育園・認定こども園から小学校という流れになり、幼稚園に通う方が少なくなつているということもあります。

他に学校教育の話でも、生涯学習の話でも市民の皆さんからご意見ございますか？

委) 都会の方には、パソコン教室とかがあつて、何かもう少し幅を広げて講座があるといいなと思います。あと時間帯ですね、お昼とかは難しいと思う。皆様働いてる人が仕事の後にパソコン教室みたいな、ということがあつていいなつて思ひます。

コ) 学校教育の方に移りますけれども、審議員の皆さんいかがですか。

審) 私から学校教育の取り組みの中で、行方キャリアプランが基本目標実現シートの中に書かれていたが、おそらくこれ、子供が自分の人生を歩んでいく中で、どういふことを目指せるかみたいなのを記録していく事なんだろうなというふうに見ていたんですけども、行方市の子供はキャリアプランに、どういふことを書いてるのかなつて思ひます。もし事例があればお聞かせいただきたいと思ひます。

審) 学校現場での話になってしまうから、そこまで学校内のことは把握してないですかね？要は、行方市の子供たちが、どういふ大人になりたいのか、あるいは行方市の子

どもにどういふ大人に育ってほしいのかが分かったうえで、議論ができるといいかなというふうに思います。

市) キャリアプランなのですけど、学校の方でやっていて、その内容は見たことがないのですぐには申し上げられません。キャリアプラン自体は、小学生から中学卒業まで、ずっと書き込んでもらうということで、どういふ職業に就いていきたいとか、どういふ勉強をしていきたいのか、そういうものを書くものだと思うのですが、ちょっと具体的でなくてすみません。

審) 時間が少ない中でもう一点だけ、おそらくその内容で、今後のキャリアを子供が描く中で、さっきの生涯学習の中でも、その地域人材の活用とか、いかにその過程の中で、こういう地域の人に関わっていくかどうかで、その内容はだいぶ変わってくると思います。インターネットやテレビで得られる情報だけで育つ子どもよりも、地域の人たちによる実体験あるお話を直接聞く機会がある子どもの方が、成長に大きく影響するだろうなと思います。そういう意味で、地域人材の活用というのが第1期の総合戦略でも重要だと、議論も広がったと覚えがありますので、重要な要素なんだろうなと思います。

市) 行方市は鹿島アントラーズと包括連携をしております、アントラーズの社長がメルカリの副社長ということで、社長のこれまでの経験を中学生にお話をする機会がありました。そのような取り組みが学校ごとに行っております。

コ) 積極的に地域住民も入れて教育に取り組んでらっしゃるということでしょうかね。

市) そうだと思います。

コ) 審議員さんいかがでしょうか、

審) 学校教育の面では、実は私も全く同じところが気になってまして、私達は実は第1期の地方創生のKPI作成に関わっていた人間として思うのですが、重要な目標になったのは、地域人教育という、地域の人たちが学校教育の現場に関わる、これは高校がメインだったのですが、関わることによって何て言いますか、その地域にとどまりやすくなり、後継者になってくれたりだとかに繋がる。これはね私もすごいと思っていて、今の学校教育っていうのは、偏差値中心になっているので、どうしてもいい学校いい大学、いい企業と良い企業というのは、ほぼ第一条件になっていますから、人口が減っていくような地域では、やっぱり地域にとどまらずに出ていってしまうというのはあるわけですね。しかし、いきなり大学を出てから社会人教育を受けるというのは、何点かのミスマッチも多いところですけど、地域人教育で一旦社会の勉強をしていくというのは、私はそれは早い段階からすごく重要なことだと思っています。なので、行方のような自営業者の方が多いとか、あとその農業の方が多いだとかいうところほど、そういう地域人教育の教える側に適した人材は結構いらっしゃるんだなと思っています。また、一旦、大学でどこか違うところに行っても戻ってくることに繋げていく非常に重要な観点かなと見えています。

コ) ありがとうございます。市民の皆さんいかがですか？

委) 国際教育なんですけど、私自身が、仕事で海外の方と仕事させていただくことがありまして、割とそういう地域ですごしてきたからか、あまり人種差別的なところを感じたという事はありません。あの人なんで日本に来ているんだろうとか、子どものうちから感じるものがあると思うんですね。それって子供のうちから、やっぱり教育のところとそういう国際的な感覚っていうのを持つと、大人になったときに、かなり違うんじゃないかなとも思ってまして、私は大人になってからそういう交流する、そういうチャンスがあったので、そういうふう感じたんですけども、子供のうちからそういう感覚があると、今言われているような SDGs とか、そういう教育にも効果的かなというふうに思います。

コ) 国籍とかの関係なく、人は人として何かそういうものがあるということでしょうね。審議員の方いかがですか？

審) 今回、最後に教育の面で思ったのは、国際理解のところ、今行方市は外国人って結構な数いらっしゃるようで、今ネットで調べたんですが 2019 年 12 月 31 日現在で、1000 人を超える外国人の方がいらっしゃって、人口比で言うと結構いらっしゃるんですよ。どちらかといえば、一番多くは中国人が多いのですが、次はベトナム人、インドネシア人、タイ人となっています。おそらく技能実習生として、おそらく農業の現場等で働く方々が結構入っていらっしゃるんだと思うんですよ。

先ほどの地域人教育の地域人の中に、私は外国人という視野もそろそろ入ってきてしかるべきなのかなと思っていて、外国の方がどういう意味合いを持って日本にいらっしゃって、彼らは何を目標とされているのか。子どもの頃から、こういうことを聞くだけでも、かなり違ってくると思います。オーストラリアに行くのもいいのですが、これ 24 人ですからね。やっぱり幅広く知っていただくには、地域にせっかくいらっしゃる外国人の方の協力を得て、何らかの学びの場を設けていくことこそ国際化といえると思います。やっぱり、小さい子供の頃からそういう人たちに慣れ親しむことが国際理解だと考えます。何をやっている人なのかなというふうになってしまうと、それこそ外国人じゃなく外人みたいな扱いになってしまうので、やはりそのあたりも含めて、せっかくいらっしゃるんで、うまく活用されてもいいんじゃないかと思います。

審) 行方市の外国人の数は多分 3 万 2000 人で人口の 3% ぐらい。大田市が 5% ぐらいで、1 万人ぐらいになるんですよ。実はさっき〇〇さんが話した多文化共生のところですが、太田市ではすごい力入れていて、橋渡し役、あるいはグローバル人材っていう呼び方で学生に対して教育をしているんです。外国人の方々は、はじめ村八分みたいところがあって、固定観念やステレオタイプがあんまりない学生のうちに、グローバル教育をすることで、地域の中での橋渡し役として、いろんなところを結びつける役割を担ってくれております。これは外国人との多文化共生だけでなく、県市外から市内に来る人に対する橋渡し役だったりする。そういう意味でこのプロジェクトは、すごく重要な要素なんだろうなというふうに思います。

コ) ありがとうございます。振り返りを行います。

生涯学習の面では、都市部にあつて行方市にないというところで、児童館がなく、本の読める年齢期の前の遊ぶ場所、親の交流の場所がない。また、核家族化が進み、時間のある高齢者が多い中で、子ども食堂はうまくいくのではないかと提案も頂きました。また、1000年村プロジェクトや風土記を活用し、郷土への誇りを育むことが必要であり、これは子供たちが地域に留まる要素にも繋がるというご提案を頂きました。

学校教育の面では、現行事業であるオーストラリアに行くのもいいが、対象者が24人だけであり、やはり幅広く国際教育をするためには、地域にいる外国人と何らかの学びの場を設けていくことが、国際理解につながるというご提案を頂きました。

それではみなさん長時間にわたり、本当にありがとうございました。これにて基本目標「新たな価値を創造し郷土と社会の未来を切り開く人間の育成」の議論を終了いたします。

ホワイトボードの写真 (コーディネーターが議論をまとめた資料含む)

